ベッド＆メイキングス第６回公演

とそぎ落としの明け暮れ

富岡晃一郎　福原充則
インタビュー

―今回の作品に対する思いや、どんな作品になりそうかをお聞かせください。

福原　いつも言いたいこととか、伝えたいことをどうも隠してしまうんですよね。でも、伝えたいっていう気持ちがあるのに、なんで隠すのか、伝えたいことほど隠したくなるっていうのがよくないなと…。木野花さんにも「そういうところがお前はダメだ！」って言われたことがあって（笑）。昔よりはだいぶ改善したと思うんですけど、今回はどこまで伝わるか、インタビューで聞かれて答えるとすごく安い言葉になるんですけど「生きるために大事なものは何か」とか、すごく安い言葉になることを、2時間かけて何とか説得力のある言葉に置き換えようとしています。

―どんな方に観ていただきたいですか？

福原　いろんな人に見に来て欲しいので、言葉が難しいんですけど、同世代の人に見てもらったときにどう思うのかなっていうのがひとつあって。僕が43なんですけど、いま若い頃に考えてたこととか、まぁその年、その年代によっていろいろ価値観は変わってきたつもりなんですけれども、それでもまた今、僕はこういう風に生きていくっていう、ガラガラと崩れたものがあって。もう一回、この先、一生とは言わないんですけれども、あと10年とかの拠り所、みたいなものが欲しいなと思って。それってなんだろうと思いながら書いています。40代って、迷うらしいんですよ。そうやっていろいろ迷い、いろいろなことを考えたときに、何か支えが欲しい、生きる支えが欲しいなっていう。

―「支え」っていうキーワードは、いろいろなものがそぎ落とされていって、そのそぎ落としてきた数が増えた分「支え」って言葉が大きくなっていったんでしょうか。

福原　大きくなったというか、その今まで言ってた感じと違う…いや、多分やる事は一緒な気がするんです、この芝居。ただその言い方が変わるというか、切実度が変わるというか。

それを同世代の人に共感してほしいですし、若い人には反面教師にするのか、なんだかわかんないけど、こういうことがこの先あるのかなって思ってほしいですし、年齢が上の人には「あー俺にもこんな時期あったな」みたいな風に見て、楽しんでもらえればなと思います。

―2 年ぶりの劇団本公演ですね。

富岡　今回は、完全にオリジナル作品をすごく久しぶりにやってるんですよ。例えば浅草九劇で上演した『あたらしいエクスプロージョン』は、こけら落としだからこの劇場から始まる物語に、そして映画を撮る人たちの史実に基づいたお話でした。『南の島に雪が降る』も原作があったので、福ちゃんがゼロから物語を創るっていうことが第二回公演の『未遂の犯罪王』以来、僕らの劇団として 7 年前ぶりなんですよ。ゼロから久しぶりに作るねってなったときに、じゃあ僕たちが信頼できる俳優さん達とやろう、と。

―そこが起点だったんですね。

富岡　そうそう、で、過去に出演してもらった方たちはみんな大好きな劇団員たちばっかりですけど、その中からベッド&メイキングスらしさを考えていくと、旗揚げの『墓場、女子高生』に立ち返って、女優さん中心の公演にしていこうって話になりました。

―珍しいですよね。こんなにそれぞれ様々なジャンルで活躍されている、大人の個性がまったく異なる素敵な女優さんが揃うのは。この方も、あの方も！というような。

富岡　でも正直、いわゆる若くてかっこいい男の人にたくさん出てもらった方が、お客さんいっぱい入るんだと思います。

一同　（笑）

富岡　なんかどんどん演劇界がそうなってるなあ、みたいなのも考えながら、それはそれで素敵なお芝居いっぱいあるから、そことはまた切り離して、自分たちは女優さんの芝居をやってみよう、っていうので企画が立ち上がった感じですね。

福原　場所に関するこだわりで言えば、いままで色々な場所でやってきましたが、今回初めて東京以外の場所でやるっていうことがひとつあると思います。女優さんに関しては、海を渡ると違うことがあるのかもしれないんですけど、僕の中では自分の言葉を託す人たちが、女優しか、そのなにかリリカルな台詞を背負えなくなってるんじゃないか、みたいなことが、いろんな各所で言われている気がして。今思っていることを、女優さんの口から発したいなという気持ちがあったんです。それも大人の女優さんの口から話してみたら、どう伝わるのかなっていう。僕は男なんで、そのまま男の口から出すとストレートというか、フィルターがかからなくなってくるんで。情報量が多い方がいいので、ミスマッチ感とか、そういうのを狙って女性の身体を通して発してみたい、っていうのはありました。

―富岡さん、男性お一人ですけどいかがですか？

福原　僕はトミーも女優だと思ってるんで。

富岡　あはは、なんだそれ（笑）

福原　僕は役者さんともほとんど飲みにも行かないですし、本人には聞かないんですけど、彼女たちが今、何を思っているんだろう？と言うことを、勝手に想像して、勝手に背負いたくなったのもあります。さっき僕の台詞を託したくなった人が、今回こういう人たちでした、みたいな言い方をしたんですけど、逆も然りで、なんか勝手に代弁したくなったというか。人の気持ちを。先日観にいった舞台が女性作家さんの作品で、出ていた女優さんを観ながらすごく作家の思いを託されているなって思ったんですよ。で、そういう仕事で、それは役者としてとても幸せなことだと思うんです。ただそんなに人の思いを託されて役者さんて大変だなと思って。それをどう解消してるんだろうって思ったんですよ。負のパワーを作家からいっぱい渡されて、それをどっか昇華する場所があったほうがいいんじゃないかな、と思って書き始めて、でも一切忘れて…。

一同　（笑）

―男性と女性とで、負の種類も違いますよね。女性が女性を通すとより真実味というか、ダイレクトさが出ると思うんですけど、それが男性の福原さんからの言葉を、女性の身体を通して発した時の美しさとか、響き方っていうのは、すごく女性としても元気をもらえる。

福原　なんかそう、美しいものに興味が最近出てきたんです。美しいってなんだろうって。美しい…きれいな女性が、とかそういうことじゃなくて。うちの親もそうだけど、年取ると一眼レフを買って夕日とか撮るじゃないですか（笑）、花とか。なんかそういう美しさ、みたいな何か。

―それは照れずに、そういうのがいいなっていうのを最近思い始めたんですか。

福原　いや、なんか、敵わないなっていう感じ。綺麗なものには敵わないな、みたいな。仕事でやっぱ新幹線乗るといまだに静岡通るとき富士山見ちゃう。敵わないなって。

富岡　そうだよね、見ちゃうよね。

福原　みたいな時に、もう一回そこに立ち向かわなければいけないんじゃないか、対抗しよう、と。舞台になると、映画だったら、ほんとそれを実景で撮っちゃうっていうのがあると思うんですけれど、舞台でね、例えば富士山の映像をスクリーンに映してもそれは伝わらないわけで。やっぱ舞台で生身の人間を通さないと、なかなか伝わらないことなので。昔から好きな唐十郎さんの戯曲を自分で演出するっていう経験もあったのかもしれないんですけど、抽象的なものに説得力を持たせるのは、舞台の魅力のひとつだなと思っています。

―ベッド＆メイキングスさんは初演時から「エンターテイメント」っていう言葉をベースに活動されているのがすごく素敵だなと思うのですが。

福原　まぁなんか、エンタメにしか救われたことがないっていうのがある。自分がそうなんでしょうがないです。あと一番難しいところに行きたい、っていうのがあるんで…。

―エンタメの良さって、ぱっと見た人が楽しんで帰るもよし、そこから社会的なものを持って帰るもよし、すごく間口が広くて深いのがエンタメのよさだと最近思い始めていて。

富岡　うちの母親は大衆演劇とか、歌舞伎とかすごくお芝居見るの好きで、エンタメが好きな人っていう印象だったんだけど、そこから深いところまで汲み取るんだよね、ちゃんと勝手に。大衆演劇のおばさまとかも、目に見えるものだけを楽しんでいるだけじゃなくて、何か本質に迫る感想を言ってくれる瞬間がある。うちらのお客さんもね、そうなのかなって。

福原　それはやっぱりエンタメ度が高ければ、高いほど、お客さんが胸襟を開いて見るっていうか、すごくオープンな状態で、表現を見るんで。そうすると裏のメッセージも飛び込んで来やすい。小難しく見るよりも、よりリラックスしているところにブチ込めるっていう。

―北九州公演に向けての楽しみなこととか、メッセージをいただけますか。

富岡　いや、もう最高だよ北九州！僕おばあちゃんちが門司にあるから。でも一昨年、96 歳の大往生でおばあちゃんが亡くなっちゃったんです。本当に大好きなおばあちゃんが亡くなった年ぐらいにこの話が出始めて、これでまた行けるんだと思って。おばあちゃんが呼んでくれたっていうふうに思ってます。すごくうれしい。親戚も住んでいてすごく仲よくて。

―『アンチゴーヌ』でも昨年お越しいただきました。

富岡　そう、だから毎年行ってることになる。本当におばあちゃん喜んでくれてるだろなって思う。

―福原さんはいかがですか？

福原　北九州はずっと行ってみたいと思っていました。いろんな良い芝居やってるじゃないですか。だから、その劇場、お客さんが育っている場所に行くのってすごく楽しいんですよ。本当に芝居を見てる、全員で見てもらえてるみたいな感じが。

富岡　ほんとそれ思った。こないだ『アンチゴーヌ』で初めて行った時に、松本と北九州は完全にお客さんが劇場で育ってるんだなっていう。もう一体となって、お客さんが作ってくれてる感じが、舞台上で感じられた。キャストの皆と、やっぱ北九州のお客さんてすごくいいねーって話に必ずなる。

福原　それはすごい。本当に楽しみだなあ。もちろん美味しい食事も！

富岡　OCM のサンドイッチ、シロヤのパン、資さんうどんのごぼう天うどん、美味しいものもたくさんあるよ！！

―（笑）ぜひ楽しみにお越しいただければと思います！本日はありがとうございました。

福原・富岡　ありがとうございました！！